

大学院時代に身につけた専門性と研究力を活かして
サステナブルな社会の実現にどう貢献できるかについて
多面的に追求しています。



私が学んだ大学院

京都大学大学院

総合生存学館（思修館）



総合生存学館（思修館）は、京都大学に18ある研究科の中で最も新しい大学院で、「総合生存学」を学ぶ5年一貫制博士課程をおいています。総合生存学とは、「人類と地球社会の生存」を脅かす社会課題の解決のために文理融合のアプローチで取り組む総合的学問で、教員と学生がともに創造する新しい学問分野です。私たちは、環境問題、人口問題、パンデミックなど地球規模課題や、将来の生命・環境・社会・産業・国家・文明などの生存に関する諸課題をかかえています。総合生存学館では、これらの諸課題の解決のため、学問分野間の壁を払います。その研究環境のなかで、俯瞰的視点を持ち、柔軟かつ論理的な思考力と堅固な意志力に富み、課題解決策の社会実装までを探求する博士人材の育成を目指しています。

修士生はこれまで、国際機関、研究機関、企業、NGOなどに就職したほか、起業した人もいます。5年一貫制博士課程ですが、2年間以上在学して修士号を取得することも可能です。また、修士号をすでに持っている人には、在学期間短縮の道も開かれています。これまで、1期生～3期生を合わせて14名が博士（総合学術）の学位を取得して巣立ち、また、修士号取得者は36名となりました。

◎ J X 金属株式会社

JX金属は、資源の開発・製錬から、IoT、AI化が進化する社会に欠かせない先端素材の製造・開発、さらには使用済み電子機器からのリサイクルまで、銅・レアメタルを中心とした非鉄金属に関する一貫した事業展開をグローバルに行う。京都大学大学院総合生存学館（思修館）と「SDGs達成に向けた地球社会レジリエンス共同講座」を2020年5月に設置。課題抽出等に向けて総合生存学館の教員・研究員・大学院生とJX金属社員との相互交流からスタートし、SDGsの実現に貢献する活動に取り組む。

国際協力師になることを目標に 総合生存学館（思修館）に入学

大学時代に国際教養学科で学んでいた高橋さんは、同学科を卒業後、大手アパレルメーカーに就職したが、仕事を続ける中で、大学時代に描いていた自分が本当に目指したいこと向き合った。

「国際協力師の第一線で活躍されている山本敏晴さんが言っている『国際協力師』のことを思い出しました。国際協力師とは、持続的にプロとして国際協力に従事する人のことですが、自分も世界が抱える困難を乗り越えるための支援に関わりたいと思い、思い切つて進路を変えることにしました」

国際協力師を目指すには、修士以上の専門性の他に、幅広い視野や裾野の広い知識に裏付けられた実行力が必要だと

考えたコミュニケーションに貪欲で、分からないことを面白と感じ（真面目なことに限らず）納得するまで議論しようとする姿勢を持っていたことだと思います」

アフリカが大好きだという高橋さんは、研究では5年にわたつてルワンダの教育を調査していた。本人曰く、総合生存学館はアフリカにいるような感覚だったと言つ。

「私がアフリカを好きな理由の一つとして、困ることは色々あつてもあれこれ考えずシンプルに感じた反応をくれる人が多いからというのがあります。総合生存学館の学生も同様で、それでいて自身の好奇心や想いを大切にしながら研究活動に励んでいる人が多く、色々と刺激を受けることも多かったです」

5年間という博士の道を進む上で時には進路に迷つたこともあつたと言つが、その都度、仲間とうまく助け合えたと言つ。

「修士号取得を目指して入学したのに、修士号つて本当に必要なの?!と思つたこともありました。その時は、同じ疑問を持っていた後輩と一緒に、博士課程に進む自分たちをheroと呼んで、What heroes can do with PhD」といったワークショップを開催し、自分たちが博士号の意味を再認識したりしていました（笑）」

京都大学大学院

総合生存学館（思修館）
2019年3月修了

たかし ともはる
高橋 朝晴 さん(29歳)

2013年3月、上智大学国際教養学部国際教養学科卒業。同年4月に大手アパレルメーカーに就職し、同年12月に退職。14年4月、京都大学大学院 総合生存学館（思修館）総合生存学専攻入学（5年制博士課程）。16年3月同専攻博士前期課程修了、19年3月同専攻博士後期課程修了。博士（総合学術）取得。同年4月、JX金属株式会社に就職。

と思ひ、自分が目指す将来像とそこで求められる力を養える大学院を探し始めた。

「そんな時に見つけたのが、京都大学大学院総合生存学館（思修館）です。この大学院はカリキュラムが分野横断型かつ実践を重んじており、多面的アプローチを必要とする国際協力の現場で力が身につくと考えました」

ユニークな仲間と学んだ5年間 刺激とワクワクで溢れた日々

「総合生存学館」は海外武者修行や合宿型研修施設など、ユニークな教育・研究環境を整えているが、高橋さんが何より驚いたのは中にいる学生だった。

「一言で言うと、勢いがある人が多かったです笑。勢いの種類も色々ありますが、共通して言えることは、分野を超えていたのですが、その中で課題を多面的に模索し、実践的な道を追求できました。それは、分野横断的視点で物事を考えるきっかけをくれた「八思」や、実社会の様々な課題に関するダイアログを多種多様な業界のリーダーと行える「熟議」といったプログラムが活きたからだと思ひます」

在学中に、UNESCOでのインターン経験などを通じて、さらなる課題解決への実践的アプローチも学んだ高橋さんは、その経験を活かしたいと思ひJX金属株式会社に入社した。

「経営企画部に所属し、様々な案件に関わらせてもらっています。『これからくる社会』に対して、会社としてあるべき姿を描き、その実現に向け現状とのギャップを埋めていく部署です。現在は、サステナブルな社会の実現に向けて当社はどう貢献できるのかを日々模索しています。『現状ありきの発想ではなく、未来を描き課題解決に取り組む』という仕事での姿勢は総合生存学で得た学びそのものだと感じています」